

みんなの活動だより

発行: MISHOP広報部会

2023.9

78

国際理解講座「世界の中の日本・多文化

共生のために」56人参加

Lecture for International Understanding, "Japan in the World and for multicultural coexistence" 56 participants

7月29日(土)14時から三鷹駅前コミュニティ・センター大会議室で第86回の国際理解講座「世界の中の日本・多文化共生のためにー米国・台湾・ウクライナ・ロシアー」が開催されました。講師は東京外国語大学教授の望月圭子先生。また講演の中で、ロシアから同大学大学院に留学中のチホネンコ・マクシムさんがゲストスピーカーとして話しました。猛暑にもかかわらず56人が参加して16時少し前に終了しました。

望月先生のご専門は外国語教育(英語・中国語・日本語)・認知科学ですが、お話は先生の諸外国におけるキャリア形成上の経験に即して、世界の中で

日本や日本語がおかれている状況を分かりやすく紹介するものでした。テオドル・ベスター教授の知遇を得てライシャワー研究所(ハーバード大学)に研究の場を得たこと、ボストンでは日本のアニメに出てくる日本語への興味が高かったことや近隣のマサチューセッツ工科

大学で日本映画が無料公開されていたこと、ニューヨークとサンフランシスコのJapan Societyでの日本語プログラム、コロンビア大学のドナルド・キーン教授の日本語講座では三年次に和歌を作る課題があったことや、ペンシルベニア州立大学の日本語上級クラスの様子が紹介されました。先生は中国の北京大学、復旦大学で研修後に台湾の国立清华大学で博士号を取得されたので、台湾大学の時計台や国立台湾師範大学などの紹介もありました。



マクシムさんは、ウラル山脈近くのチェリャビンスクで育ち、子供の頃に杉みき子さんが書いた短編「かくまきの歌」が大好きで日本語に興味を持ち、独学、アニメ、日本語クラブ、露日協会で勉強したそうです。おばあさんはウクライナ人で、親族にはウクライナ人とロシア人の両方がいますが、親戚として仲良く交流をしておられるとのことでした。

お二人とも時間不足だったので残念でしたが、世界の中の日本と日本語の様子に触れることができる講演でした。(山根正彦=会員)

On July 29th, the next in the series of lectures for international Understanding, "Japan in the world and for multicultural coexistence," was held at Mitaka Eki-mae Community Center. The lecturer was Keiko Mochizuki, a professor at the Tokyo University of Foreign Studies. Also, Mr. Tikhonenko Maksim, a graduate student from Russia at the university, served as a guest speaker. Fifty-six people attended despite the heat wave.

【感想シートから】Comments from the impression seat

○国際理解講座に初めて参加させていただきました。勉強になり、日本の歴史、世界の歴史をもっと知らなければいけないと、良いきっかけになりました。

○普段知ることのできない米国、台湾、ロシア、ウクライナのことがわかり、おもしろかった。多文化共生について考えさせられた。

○国際社会の一員として、定期的にこのような講演会を続けていくことは重要。関係者の努力に感謝したい。



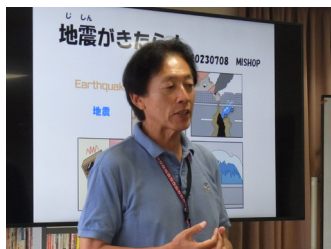
出前講座「地震がきたら！」開催

外国籍市民 20 人参加

Disaster Preparedness Workshop “When an earthquake comes!” 20 foreign citizens participate

外国籍市民向けの「出前講座・地震がきたら！」が7月8日(土)、MISHOPで開かれ、子ども9人を含む外国籍市民20人と日本人ボランティア19人が参加しました。

講師を務めたのは元MISHOP事務局長でNPO法人「Mitaka みんなの防災」事務局長の太倉 誠さん。いつ、どこで起こるか分からない「地震」をテーマに、地震が起こるとどうなるか、起こった時の対処の方法や揺れが収まった後の注意点、避難した後の行動などについて、イラスト入りのテキストと画像を使って分かりやすい日本語で説明してくださいました。



参加者はアフガニスタン、ウクライナ、イギリス、中国、トルコ出身者で、日本語教室や子ども教室の学習者やラウンジ参加者とその家族などです。日本人ボランティアを交えて6つのグループに分かれて、クイズを解きながら楽しく学んだ後、非常食の炊き込みご飯を味わいました。

On July 8th (Saturday), MISHOP held a disaster preparedness workshop for foreign citizens, titled “When an earthquake strikes!” Twenty foreign citizens, including 9 children from Afghanistan, Ukraine, England, China and Turkey, and 19 Japanese volunteers participated. The lecturer was Mr. Makoto Okura, former secretary general of MISHOP and secretary general of the NPO “Mitaka Minna no Bosai” (Fire Prevention for Everyone in Mitaka). Using text and images, he explained in easy-to-understand Japanese what would happen if an earthquake occurred, how to deal with it, and what to be careful about after the shaking subsides.

【感想シートから】Comments from the impression seat
外国籍市民参加者 (Foreigner participants 原文のまま)

○MISHOPではいつも実用的な情報を提供してくれて感謝しています。また、こちらでは通訳をしてくれるので大変ありがたいです。外国人として、私は日本の友人たちに溶け込みたいと思っており、MISHOPは第二の家のように感じています。(アフガニスタン)

○地震に関して私は日本を信じていますので、大きな地震が来ない限りは自宅を離れないようにするつもりです。いろいろと教えてくださってありがとうございます。地震と津波には気をつけようと思います。(トルコ)

○たくさん実用的な知識をもらいました。以前間違えていた知識は、これをきっかけに直しました。本当にありがとうございました。(中国)

○良いスライドもあり、とても分かりやすい説明だったと思います。スピードもちょうど良かったので理解できました。隣の方が手伝ってくれたことも助かりました。提案ですが、地震とはどういうものか動画で見せると良いと思います。が、いかがでしょうか。(イギリス)

日本人ボランティア (Japanese volunteer)

○地震への備えの基本ポイントを再確認することができ、とても有意義でした。

○外国籍の方々には、とても重要なやさしい日本語による防災講座だと思います。秋の総合防災訓練のMISHOPブースとともに、今後も継続してください。通翻ボランティアとして今後も参加させていただきたいです。



3週間後の9月24日に32回目の三鷹国際交流フェスティバルが井の頭公園西園とその周辺で開催されます。MISHOPでは実行委員会を中心に準備を進めています。今回はコロナ前に近い形で開かれ、多文化紹介アトラクションやMISHOPステーションが復活します。競技場のトラックをキッチンカー20台が囲む予定で、今からわくわくしています。ぜひ会場にお越しください。